

# 組合士 アラカルト

品川区リサイクル  
事業協同組合カムズ

専務理事

みやざわ  
宮沢

まさひろ  
正博さん

## 「仕事をする組合」の責任と達成を確実にするために

「当組合は品川区から資源の行政回収から区施設のリサイクル品の回収事業を15年以上にわたり受託しています。環境安全に配慮し、多くの区民の方から信頼されるよう責任感を持ち仕事を確実に達成することは、組合員共通の目標です。そこで、組合では「仕事をするからには、しっかりと、そして楽しく実践していこう」を運営モットーに、できることから一つずつ、あれこれ工夫して、実行しています」。こう語るのは、品川区リサイクル事業協同組合カムズの組合員であり、専務理事も務める宮沢正博さんである。

### 組合運営のキーマンを目指して

バランスの取れた組合運営を実現するためのさまざまな工夫、アイデアを考え、実行に移しているのは宮沢さんである。たとえば月に1度の定例会では毎回、組合員が交代で司会を務める。また、年に数回、参加者全員が1〜3分間スピーチを行う。これらは、「なるべく多くの組合員が話して、コミュニケーションをよくする」目的で始めたが、「要点をまとめて話したり、プレゼンテーションをする力をつけるのに効果があった」と手応

えを感じているという。

また、「自分たちの仕事が行政からの受託事業であることについて組合員の意識を高める」目的から、回収作業等でのミスや違反に対してイエローカード・レッドカード制を実施している。サッカートにヒントを得て実施した注意喚起だが、「きちんと対応しなければ」という意識づくりにつながっているそうだ。この他にも宮沢さんの発想に基づく運営の工夫は数多い。

今でこそ組合運営のあれこれを言える宮沢さんだが、「理事長や私をはじめ発足当初のメンバーは組合のことはずぶの素人。その中で、気がつけばあれこれ担当するようになっていた」と言う。あれこれの中には会計も含まれていたが、「ちんぷんかんぷん」だったため、東京都中央会に相談して紹介された会計事務所の人々が実は組合に詳しい方だった。「私の素人さ加減はすぐに見抜けたはず」しかし指導はさりげなく、そして宮沢さんに組合士という資格検定試験の存在を教え、挑戦を促してくれたのもこの方だったそうだ。それならばと勉強して挑戦した試験には見事一度で合格、それらの

経験を通じて「資格を持ったことで自分に自信が付き、それが支えとなり強みとなる」と実感しているという。

### 仕事をする組合カムズ

同組合は平成7年に10組合員で発足し現在は12組合員。組合設立準備段階から古紙業界、空びん業界、スクラップ業界のリサイクルに関わる基本3業種が参加品川区からの資源回収事業受託（行政回収）を事業の柱として据えていた。現在ではこの行政回収に加え、回収資源の選別処理及び買い上げ事業の3本が組合の主要事業となっている。

また、品川区から運営を受託している資源化センターにおいては組合副理事長がセンター所長として専従で運営にあたるなど、品川区と品川区内で展開されるリサイクルに責任を持って積極的に関わろうとしている。

組合事務局は5名の専従職員を擁し、うち2名は資源収集事業も掛け持ち、小回りの利く回収を行って組合事業のフォローアップにあたっている。宮沢さんは、「組合の将来を考え」て後継者育成にも取り組んでおり、若手職員1名にも組合



士の資格を取得させている。「目に見えるとそれが職員の励みになるから」と事務局には組合士の認定証をはじめさまざまな資格証書や賞状も掲げられている。

### 組合の将来へ向けて

今後の組合事業については、行政回収に加えて区内の事業系リサイクル事業も展開していきたいと考えているという。それらを通じて今以上に組合員のためにバランスの取れた事業運営を実現していきたいとのこと、「当組合が区内の資源ゴミに関する情報プール機能となるようなソフト機能を充実させる」ことを目指したいそうだ。

専務理事になって16年、「今は充実した時間を送っている」と言う宮沢さんだが、「組合にも自分にも転機となったのは、やはり、会計事務所の先生との出会いです。お金を管理することの難しさを教えられ学んできたからこそ、これからも事務局が主体となり、組合の将来につながるバランスの取れた運営を続けていきたい」と抱負を語ってくださいました。